

「み仏の光をあおぎ…」

富山教区 善解組 祐教寺 瀧本圭

おはようございます。富山市八尾町上新町、祐教寺住職 瀧本 圭と申します。

私事ですが、私には三人の子供がいます。5歳の長男、3歳の長女、4ヶ月の次女と、今、3歳の長女が1歳ほどの時でした。長女が初めてハイハイをしました。私と妻と2人して、手叩き「もう一步、頑張れ」と喜び、声をかけました。それを見ていた、当時3歳だった長男が「僕の方が上手に出来るよ」と言ってハイハイをし始めました。長男を「上手だね」と褒めてあげれば良かったのですが、私たち両親は「何してるの?」と言ってしまいました。赤ん坊がやっとかっつとハイハイするから可愛いんであって、3歳の走り回っている子供がハイハイしても可愛くもなるともなれないと感じてしまいましたから。

子供達は毎日成長します。昨日出来なかった事が今日出来るようになった。昨日までは下手だった事が上手に出来た。新しい事を覚えた。そんな事が毎日のように有ります。「パパ見て、見て、上手に出来るでしょ」「パパ見て、見て、すごいでしょ、こんな事出来るよ」

と嬉しそうに見せてくれます。親である私は子供の成長が嬉しいですね。子供達も上手に出来て、喜んでいきます。親と子供が、共に喜んでいる。これは素晴らしい親孝行の形じゃないでしょうか？言うなれば私は毎日のように子供達に親孝行をしてもらっているわけです。

では、私は親孝行しているであろうかと考えてみると、とても親孝行しているとは言えません。

現在は、両親と離れて暮らしていますが、「孫の顔を見せに来い」と言われても中々足が向きません。忙しいだとか、お寺を空けれないとか言い訳ばかりしています。

「たまには電話ぐらいしてきなさい」

と言われてもこれも中々出来ていないのです。母親から電話がかかってきても、子供達に「おばあちゃんから電話だよ」とすぐに渡してしまう有り様です。

浄土真宗の生活信条に

「一、み仏の光をあおぎ、常に我が身をかえりみて 感謝のうちに励みます」とあります。

「常に我が身をかえりみて」、とありますが、普段 自分はどうか？と考える時には、私から見て私はどうか？人から見て私はどうか？ですが、浄土真宗の我が身をかえりみる時には仏さまから見て私はどうか？と考えるべきですね。私から見て私、人から見て私 だけだと甘いですね？自分で自分を褒めてあげたいということがたまにありますから。

仏さまから見て自分は、仏さまに褒められるような事をしているだろうか？怒られるような事をしていないだろうか？ 仏さまは私の事を見て泣いておられないだろうか？

自分も嬉しいなあ、仏さまもきっと喜んで下さっているだろうなあ、そんな生き方はどこにあるんだろうか？ と道を求めて行くのが、

「み仏の光をあおぎ、常に我が身をかえり

みて」というの生き方なのではないでしょうか。

次に「感謝のうちに励みます」とあります。

先ほど、私は子供達に毎日のように親孝行をしてもらっている、と申しあげましたが、普段そのような事を考えているかという、そんな事は有りません。してもらっているどころか、私の子供達を育てている、子供達の世話をしあげている、と考えている私です。近頃、子供が出来たとか、子供を作る、という言葉使いをよく耳にしますが、子供は 恵まれた と言うべきでしょう。

仏さまから私を見たらと考えた時には、子供だった私が大人に育ててもらって、子供に恵まれて、やっと父親になった…、ではなくて育てて頂いた。と思えてきます。普段の生活の中では中々、感謝の気持ちの持てていない自分に気付かされますね。

もうすぐお彼岸になります。お彼岸にはお墓参り、お仏壇参り、お寺参りなどされるとと思いますが、先立っていか

れた方々が与えて下さった、仏さまに手を合させて頂くご縁ですね。

仏さま、先立っていかれた方々に感謝申し上げるとともに、仏さまから見て私はどう見えるだろうか？また、先立っていかれた方々から見て私はどう見えるだろうか？尋ねて頂きたいと思います。

解説

浄土真宗の生活信条

- 一、み仏の誓いを信じ 尊いみ名をととなえつつ 強く明るく生き抜きます
- 一、み仏の光をあおぎ 常に我が身をかえりみて 感謝のうちに励みます
- 一、み仏の教えにしたがい 正しい道を聞き分けて まことのみのりをひろめます
- 一、み仏の恵みを喜び 互いにうやまい助けあい 社会のために尽くします